

鎌倉極楽寺・浜田頓坊 甘辛都々逸 ほんのほんのラビ 202

《いろいろの鳥が餌を求め朝昼晩に》

ヒヨ

◇ 鶉やリス 甘夏狙って 朝昼夕に

餌を求めて 賑やかだ

◇ 名前など 知らない鳥ども あちこち集い

よくも賑やか それも良

◇ お隣りや 近所に配った ミカンの残り

鳥やリス等の 想うまゝ

◇猫の「とん」 鳥やリスなど聲かき食って
用い棒役 今居ない

◇朝一で 久し振りだな 初雪の景色
流石リスなど まだ来ない

◇竹竿に 鎌を縛って 高所のミカン
取りたいけれども やはり齢

◇「不期明日」は 明日があるなど
思わぬ今日を 生きることだと 言つた仁

◇体調を 崩したながらも 何とか耐えて
冬のイタリヤ オリンピック

件

◇ かつて冬 スキー一日 転ばず滑り

そこそこ技術も あったわけ

◇ 江の島の 沖に夕陽が 金色波を

映し輝やく 伊豆の山

◇ 一日に 20首くらいは 詠んでいたことも

時には あったが 今じゃ 92 (苦)

○ 毎回カット ありがとうござります。

②